

労働組合のアンケート調査の目的と手法

伊藤久雄（認定NPOまちぽっと理事）

1. 目的を明確にする

- 一般的には賃金要求調査のように、組合員の要求、あるいは要求水準を知り、まとめるために行うことが多い。
- 組合員が組合に何を求めているか、何を期待しているかを探り、運動方針に反映するために行うこともある。

<私の経験から>

- ・ 都職労建設支部の執行委員のときに「超勤対策委員会」として行った「超勤に関するアンケート調査がある。
- ・ もう40年ほど前のことになるが、このときの調査で「賃金の総額が減ってもいいから、超勤をゼロにしたい」とう回答が圧倒的に多く、自信を持って「超勤をなくす闘い」を提起したことがある。

2. 調査の手法（調査の方法）を考える

- 全体の傾向をつかむための定量調査と、組合員の意見や要望などを詳しく聞き取り集約するための定性調査がある。
- 定量調査は、集約を簡単にしようとするなら「設問に○をつけてもらう」手法が多い。先の賃金要求調査はその代表的なものである。
- 定性調査は、グループインタビューなどの手法もある。定量調査でも「自由意見」を書いてもらう設問が多くなれば定性調査に近いものになる。

<私の経験から>

- ・ グループインタビューは、東京自治研究センターの「病院研究会」のときに、アンケートの調査内容を探るために行ったことがある。

3. 設問内容、項目を考える

- 実は、この設問内容、項目を考えることが一番難しい。設問内容、項目は調査の目的や対象（対象となる個人あるいは対象職場、対象職種）によって異なるものである。
- 定量調査であれば設問はそれほど難しいものではない。しかし定性調査は、特に「答え方」が難しく思われる場合がある。先に紹介したグループインタビューは、調査内容や設問を考えるためには有効である。

- 設問内容、項目を執行部で議論し、案ができたときに、どこかの職場で試行的に答えてもらい、最終案に反映するということも考えられる。

<私の経験から>

- ・ 現在、理事・調査スタッフを務めている「NPOまちぼっと」で、「これからの住まい方と空き家活用」についてアンケート調査を何度か行ったが、「自由意見欄」には白紙が多かった経験がある。
- ・ ただし自由意見欄には、予測していなかった回答が結構あり（意外性）、集約していて楽しかった覚えがある。

4. 集計の方法を考える

- 定量調査の集計は簡単だと思われるが、「自由意見欄」の集約やグループインタビューの集約は工夫と時間が必要になる。
- 集計・集約した結果の組合員に対する見せ方も工夫が必要になる。

5. 集計・集約結果の分析をどうするかを考える

- 集計・集約結果の分析は、第一義的には執行部で行わなければならない。
- ただし、集計・集約結果の分析を今後の活動方針等に反映するためには、執行部だけの分析だけでは不十分だと思われる。
- 執行部の分析案をもって、職場ごとのループ討議を行うことも一案である。思わぬ考え方や意見がでてくる可能性がある。